

県内外のペタンク愛好者をつなぐ

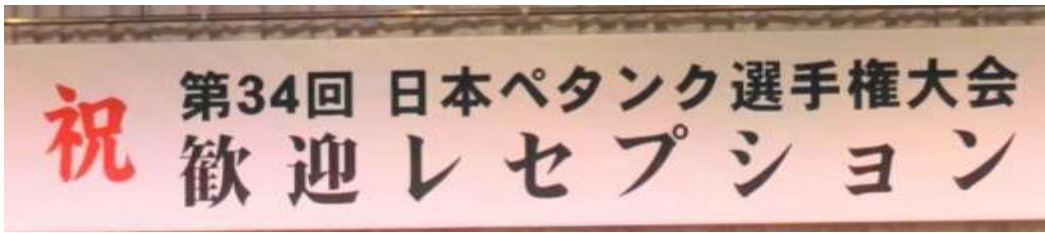
彩の国ペタンク通信

第69号

編集 埼玉県ペタンク・ブール連盟
企画・編集 広報部(森)
連絡先 048-572-1885
Mail: petamori1885@gmail.com



10月5・6日、秩父市で開催された、第34回日本ペタンク選手権大会において、埼玉県チームが男女ともに初優勝を果たしました。
また、6日に開催されたジュニア大会においても埼玉県ジュニアAチームが準優勝しました。



全国から選び抜かれた男女128チームが埼玉県秩父市宮地グラウンドに集結し、ペタンク日本一を目指して戦いました。

前日には決戦の地を見下ろす場所にある農園ホテルにて歓迎レセプションが行われ、埼玉県連盟中西副会長の開会の言葉に始まり、大会会長・公益社団法人日本ペタンク・ブール連盟碓井会長の挨拶を賜り、埼玉県連盟井上会長から歓迎の挨拶、秩父市にペタンクを広められた



前秩父市長栗原様、秩父副市長竹中様よりご祝辞をいただき、秩父市ペタンク連盟大山会長の乾杯の音頭で宴が始まりました。



レセプション開始前には、秩父農工科学高校屋台囃子保存部の皆さんより秩父屋台囃子の演奏をいただきました。



歓迎アトラクションでは卒業ソングとなりました「旅立ちの日に」を作曲された高橋先生がピアノを弾き語りしていただき、参加者全員で「旅立ちの日に」を合唱しました。



秩父市神楽保存会の皆様より、御神楽の披露もあり、次回開催地でもある富山県への引継ぎ式を行い埼玉県連盟河部副会長の手締め、内田副会長の閉会の言

葉でレセプションは終了しました。
5日は開会式が行われ、碓井大会会長挨拶に始まり、多くの来賓の皆様挨拶を賜りました。選手宣誓では、秩父市から選手として参加している新井高野選手より選手宣誓が行われ予選リーグが開始されました。



埼玉勢は男子が5チーム、女子が4チーム予選を通過、午後4時から開始された決勝トーナメント1回戦に進みました。その結果、男子は4チームが2回戦へ、女子は1回戦で埼玉同士が対戦、その勝者の1チームが2回戦に進みました。

女子チームは順当に勝ち進み決勝戦まで進みました。
男子は2回戦、3回戦で埼玉同士が戦い、女子同様に勝者チームが決勝戦まで進みました。

第34回日本ペタンク選手権大会



大会審判団

日ペ・清水副会長 日ペ・上杉副会長
県連盟・井上会長 日ペ・碓井会長



優勝 埼玉県女子Bチーム
大久保まち子 高野環 今井富美子



優勝 埼玉県男子Dチーム
浅見恒夫 内田均 太幡菊男

優勝チームのコメント

決勝戦に残った埼玉県男子Dチームは、一昨年優勝した島根県Aチームを13対9で破り、見事に初優勝を飾りました。

キャプテンの内田選手は、チーム原谷は発展途上にあり、来年の富山大会に向け切磋琢磨していきます。浅見選手は、「知・仁・勇」のバランスなど富山大会への課題が山積状態です。太幡選手は私にテイルを指導してくださった各クラブの皆様へ感謝、感謝です。

埼玉県女子Bチームは、1回戦で埼玉県女子Dチームに勝利した勢いで決勝まで進み、広島県チームと対戦し、13対8で破り、見事に初優勝を飾りました。

キャプテンの高野選手は、名誉ある優勝、開催地秩父で男女ダブル優勝できて、うれしい一言です。今井選手は優勝できて本当に嬉しいです。お世話になった皆様に感謝します。大久保選手は皆様の応援に感謝です。3人の良いところがあるので優勝につながり本当に嬉しく思います。

埼玉ジュニア頑張りました



準優勝 埼玉ジュニアAチーム
地頭江大志 高橋一慈



ジュニアの部には16チームが参加し、岡山県が優勝、埼玉県は準優勝及び、3位には埼玉ジュニアF(石渡玲希 八木華亜)が入りました。

黒田ペタンク大会

第12回黒田ペタンク大会が9月

8日(日)深谷市花園農業者トレーニングセンターで46チームが参加して開催されました。

台風の上陸が危ぶまれましたが試合時間を変更しつつも終了することができました。

大会は7つのブロックに分かれ総当たりでのブロック優勝を競いました。

各ブロックの優勝者

- A 川本A(柴田つね、吉田茂子)
- B こぶし(清水紀男、清水千里)
- C 花園C(宇野力夫、落合迪典)
- D 秩父諏訪A
(堀内きみよ、新井美和子)
- E さかろん
(石川太津男、石川ひろ子)
- F ふじみん
(上屋敷竹次郎、小甲久江)
- G 秩父諏訪B
(太幡菊男、黛松枝)



さいたま市ペタンク大会

9月29日(日)

さいたま市大宮さと公園にて第30回三郷市レディース&ダンディーズオープンペタンク大会が開催されました。

各ブロック優勝チーム

- A しまでもん
(森恵美子、清水恭子、松井恵)
- B くすの木
(井上まち子、今泉君子、渡邊真由美)
- C ヴィレッジ(木村功、木村奈穂美、市村喜美夫)
- D チーム飯能
(若山一、青木益代、鈴崎利子)
- E 片柳A
(長利光、橋本順、宮崎康夫)
- F セルクルZ
(益子正、柳澤佳、宮城修一)
- G 坂戸城山
(並木義彦、泉恵美子、石川太津男)
- H 秩父原谷
(内田均、浅見恒夫、太幡菊男)



三郷レディース&ダンディーズ大会

10月20日(日)三郷市県営み

さとの公園にて第30回三郷市レディース&第5回ダンディーズオープンペタンク大会が開催されました。

レディーズに17チーム、ダンディーズに20チームが参加しました。

開会式では、三郷市ペタンク協会の雨宮会長より歓迎の挨拶と台風15号、19号の襲来により被災された方々に対して哀悼の意とお見舞いの言葉がありました。

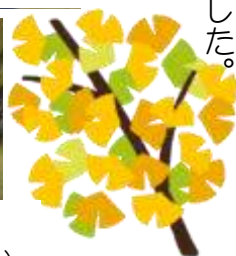
選手は、軟弱なテランにもめげず、各所で手に汗握る真剣な勝負が展開されました。また、盛り沢山の品揃えをした休憩所では終始笑顔の交流が行われました。



ダンディーズの部「優勝」
石井好一 郷間直樹(千葉県)



レディースの部「優勝」
関口巨子 奈良みよ子(千葉県)



- A 片柳F
(根岸直治、森田治、森輝雄)
- B ゆずの里
(古木美江、大谷シズエ、中村サト)
- C 夢のしずく
(菅原武、山本たや子、桜井良久)
- D 花もも
(川端進、川端芳子、小島武)
- E ふじみ野
(小甲久江、上屋敷竹次郎、林田利子)
- F 片柳D
(橋本順、酒井克江、坪根豊美)
- E 片柳E
(高橋憲次、藤倉登美子、林信男)

表彰式の終了後には、大抽選会が行われ、最後まで参加選手を楽しませてくれました。



飯能プランタンカップ

11月17日(日)飯能市加治東小

学校で第46回プランタンカップ兼第38回市民レク祭が開催され、38チームが参加、7ブロックに分かれてブロック優勝を競いました。

各ブロック優勝チーム

- A 片柳F

江南オープンペタノク大会

第13回江南オープンペタノク大会が11月30日熊谷市江南総合グラウンドで開催され、今年度から公認E大会に指定され県外からも多く64チームが参加しました。



木村事務局の名司会で始まり、宮城会長挨拶では、「三芳大会でのサツマイモ賞品を江南大会で継承していく方針であり、決勝トーナメント1回戦を勝利したチームには、サイツマイモが順位別に贈られると発表されました。」



3位 チームつんつん
深澤一樹 矢澤翼 佐藤優光



優勝 太田SOY
落合幸矢 東海林淳 柳沢佳寿

★ ★ 大会結果 ★ ★

村審判長より競技説明、スタッフの紹介があり予選リーグが開始されました。
対戦が終了したチームには、江南クラブからの「おもてなし」もあり、焼き芋やお餅のサービスをいただきました。



4位 上尾ファイター
若井安雄 斉藤勲 落合由利子



準優勝 チームKIK
加藤賢治 市川重夫 加藤英男

「おぐりん」和歌山大会「見聞録」



11月9日、総合開会式会場である和歌山県紀三井寺陸上競技場。観客を含めれば延べ数40万人といわれる大会の総合開会式、行進中にジワジワと心が震えてくる感動：その中核にあったのは、県、ペタノク・ブル連盟及び秩父市、ペタノク連盟の皆様への畏敬の念であり、さらには家族への感謝の心。アトラクションの最後は坂本冬美さんによる「ただいま故郷」。歌詞中にある

「生きていくことは素晴らしい」が胸に響く。10日に若出市若もの広場にて予選リーグ開始。「埼玉から来ました」と挨拶すると、「あのペタノクの強い」という言葉が返ってくる。多く、そこに埼玉の諸先輩方が積み重ねた歴史の重みを改めて感じる。愛知、高知、鳥取との対戦。日本選手権等の過去の実績から愛知、高知は特に強敵になると思いつつ、試合開始。対愛知戦は1点差ながら辛勝。次いで対高知戦。予選リーグ最強チームと警戒しつつ、進行。最終メー又段階で同点。ポアントゥール担当の私の第一投はピュットや右手前30センチ弱の位置。テイルだつと覚悟したところ、相手チームもポアントゥール、これが私のボールをよりピュットに近づける状況に。結局最後までこのボールが生きてのゲームセットで、2勝目。埼玉メンバーはここまでポアントゥールに私、太幡テイル、ミリュウは対愛知戦に篤さん、対高知戦は坂本さんという布陣。第2戦終了段階で鳥取が2敗となったため、予選リーグ1位通過が決定。最終戦は篤さん、太幡さん、坂本さんをお願いして3勝目。翌日の決

勝トーナメント和歌山のポアントゥールに苦しめられながらも、途中で盛り返し、1ポイントで迎えた最終メーヌ。テイルを狙ってきた相手球にこすられたピュットが奥にわずかに移動した状況に対応できずに敗退が決定。それでも各役割分担に努められたことで、「頑張れてよかったね」と4人全員納得の大会であった。

文責 監督兼選手 浅見恒夫

